

Title	目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1957
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.50, No.10/11 (1957. 11) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第五十巻記念論文集
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19571101--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

目次

ポリネシア人のハワイ移住について……………野村兼太郎(一)

為替相場と国際収支に関する若干問題……………金原賢之助(三)

——第二次大戦後の世界為替研究——

人口老化を巡る諸問題……………寺尾琢磨(四)

経営学における価値論と職能論の統一について……………小高泰雄(七)

学校社会事業について……………小島栄次(九)

——社会事業の概念の問題と関連して——

社会主義と生産手段の公有論	気賀健	二
バブーフの共産主義理論	平井新	(一四)
わが国における労使協議制の問題	藤林敬	三(一七)
リューベック市民の土地購入	高村象平	(三三)
——第十四世紀後半のザクセン・ラウエンブルク公領——		

ポリネシア人のハワイ移住について

野村兼太郎

序

昨年九月から今年二月まで、ハワイ大学に招かれて、ホノルルに滞在した。滞在中私の最も興味をもった問題は古代ハワイ人の生活であった。特に二つの点に興味を覚えた。一つは彼らの生活が第十一世紀頃から一七七八年、ジェムズ・クック (James Cook) に依って発見されるまで、殆ど全く孤立的生活を営んでいたことである。尤も島そのものは第十六世紀の中頃にスペイン人ルイ・ロペズ・デ・ヴィラロボス (Ruy Lopez de Vilalobos) とジュアン・ゲェタノ (Juan Gaetano) との一隊がすでに発見していたという説もある。ハワイ人の伝うるところに依れば、クック以前に三回ばかり白人の来航があったという。又前記のゲェタノについては彼がニュースペインからスパイス諸島に行く途中、一五五五年に立ち寄ったというスペイン側の証拠があるそうである。(Arahan Fornander, "The Polynesian Race, its Origin and Migration," 1880, II, 359-364 参照。)しかしビィタマ・